

教職員の皆様へ

サービス規律確保に向けた取組事例

令和7年4月 東部教育事務所

サービス規律の確保に向け、各学校で具体的な取組を行っていただいております。しかし、取組が形骸化している現状も伺えます。そこで、管内の学校等の取組の中から、ちょっとした工夫を行っている事例を紹介します。

重点項目等を日常的に意識する取組

重点項目等に関するキャッチフレーズや合言葉、標語等を作成し、職員室内に掲示したり会議資料に記載したりしています。



毎週金曜日には、全職員が当番で、重点項目等を意識した行動についてメール配信しています。

毎月の安全点検日には全職員で机上整理を実施し、個人情報管理について意識できるようにしています。



重点項目等は、職員が日常的に意識できるようにすることが大切です。紹介した取組は、重点項目等について普段から目や耳にしたり、日を決めて実行したりすることで、日常的な意識化を図っています。

自校の課題に即した取組



自校の課題に即して「人権感覚チェックリスト」や「ハラスメントに関するチェックリスト」を活用し、自己評価を行いました。

適切な生徒指導が行えているかを確認するために、生徒指導提要进行し、現在の生徒指導の考え方を理解しました。



性暴力に対する問題意識を高めるために、文部科学省の「『生命（いのち）の安全教育』指導の手引き」を活用し、研修を行いました。



自校の課題に即した取組を推進するためには、群馬県教育委員会や文部科学省等の各種資料やチェックリスト等を活用することが有効です。また、既存の資料を活用することで、資料準備にかかる時間を短縮することもできます。

専門家を活用した取組

スクールカウンセラーによる「アンガーマネジメント研修」を行い、感情的になりそうな時、自分を落ち着かせる方法について考えました。



スクールカウンセラーによる「アサーション研修」を行い、ハラスメントを防ぐコミュニケーションスキルについて学びました。

スクールロイヤーによる「著作権・肖像権研修」を行い、インターネット上の問題に対する意識を高めることができました。



専門家を活用した研修を行うことで、教員とは別の視点から事例について考えることができます。特に、心の専門家であるスクールカウンセラーや法律の専門家であるスクールロイヤーを活用した研修は、服務規律確保に向けた取組として有効です。

より自分事化するための取組



事例を基にした研修では、その事例を自分に当てはめ、社会的・経済的影響等について考えられるワークシートを活用しました。

事例を基にロールプレイを行い、「どこに問題があったか」「自分だったらどうするか」について検討しました。



児童生徒対象の情報モラル、ネットリテラシーに関する講習内容を職員で共有し、自身のSNS等の利用に関する問題点を考えました。



多くの学校で、事例を基にした研修を実施しています。その際、「何が問題だったか」「どうすると防げたか」「自身や自校ではどうか」「自分にとってどんな影響があるか」まで考えることで、事例がより自分事となります。

取組の効果を上げるための大前提として、次の点も確認しましょう。

支持的な学校風土

- 職員一人一人が「認められている」と実感していますか。互いに助け合う雰囲気はありますか。管理職任せではなく、自分たちでも働きやすい職場づくりを進め、ストレスを軽減することが大切です。

